日文教育資料

次回セミナーのご案内は裏面をご覧ください！

第4回 日文道徳セミナーin東北

セミナーレポート

毎年、東北各県で開催している本セミナーですが、第4回は2025年2月8日、山形市の山形ビッグウイングで開催いたしました。（対面とオンラインのハイブリッド開催）

当日は、小学校・中学校での授業実践の報告や、実践発表者3名の先生方と渡邉真魚先生によるトークセッションが行われ、多数の先生方にご参加いただきました。本セミナーの内容をレポートいたします！

猪岡 養子先生
（秋田県横手市立大森小学校 教諭）

山田 将之先生
（岩手県盛岡市立上田中学校 教諭）

テーマ

考え、議論する 道徳の授業展開

積田 育子先生
（福島県郡山市立大槻中学校 校長）

渡邉 真魚先生
（日本大学 教授）

※所属等の情報は、セミナー実施時のものです。
本セミナーは、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、開催を許可されているものです。

心が動く、その先へ。
日本文教出版

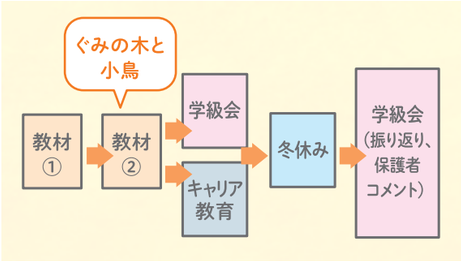
発表1 小学校授業実践 猪岡 養子 先生 （秋田県横手市立大森小学校 教諭）

▶ 道徳を要としたカリキュラムマネジメントにより親切、思いやりの心を育む

教材 2年「ぐみの木と小鳥」

このカリキュラムマネジメントは、教育目標と日常生活を結びつけるとともに、教科間の連携を深め、学校と家庭の協力を促進することで、「考え、議論する道徳」の実現を目指しています。

カリキュラムマネジメントの核となる道徳科の授業では、内容項目「親切、思いやり」を取り扱う2つの異なる状況設定の教材（知らない人への親切を題材とした教材と動植物を通じて仲間への勇気や助け合いを題材とした教材「ぐみの木と小鳥」）を学習しました。これらの教材を通じて、多角的な判断力を養うとともに、道徳的行動への理解を深め、それを生活での実践に結びつけることをねらいとしています。



カリキュラムマネジメントの全体像

さらに道徳科の授業後、冬休み前の学級会で冬休みの過ごし方や家庭・地域との関わり方（手伝いや挨拶など）について話し合い、具体的な計画を立てました。冬休み後の学級会で取り組んだ内容を発表する機会を設け、保護者からのコメントをもらうことで、家族や地域への協力や貢献の達成感を共有しました。この過程により、自己肯定感を高め、感謝の気持ちを育むことができました。

このカリキュラムマネジメントでは、道徳科の授業を軸に学級活動やキャリア教育を連携させ、「親切、思いやり」について多角的に学べるように仕組んでいます。同時に、協力や自己管理といった非認知能力を育成し、日常生活への実践力を高めようとしました。

発表2 中学校授業実践 山田 将之 先生 （岩手県盛岡市立上田中学校 教諭）

▶ 3年間の系統的な指導を目指して

教材 3年「風景開眼」

数学科の学習では、以前学んだ学習を復習してから、新出事項の学習を行います。一方で道徳科の学習では、これまでの経験を想起することはあっても、前学年で取り扱った同じ内容項目の教材を振り返る学習は比較的少ないようです。

そこで今回の提案では、「感動、畏敬の念」の既習済みの3つの教材と本時の教材である「風景開眼」をもとに、3年間にわたる系統的な指導が可能かを検証しました。

生徒たちが既習の3教材で「感動、畏敬の念」について考えた経験を想起できるよう、既習済みの3つの教材文等を事前に読んでもらいました。本時では、生徒たちがそれらの教材を振り返りながら、学習課題「自然は人間にどのような影響を与えるのか」を明らかにしました。その後、著者が自らに問いかけた文章に着目し、著者が感じた感動やその理由について深く考察する中で、美や崇高さを謙虚に受け止める態度を育み、人間の力を超えた存在への畏敬の念を深めることができました。

日常生活の中で「感動、畏敬の念」について深く考える機会はあまりありませんが、道徳科の学習だからこそ、意義のある内容になったと感じました。また、生徒たちの真剣な取り組みを見て、「感動、畏敬の念」が私たち人間の生きる原動力であることを改めて認識する機会となりました。

発表3 校長先生による授業実践 積田 育子 先生 （福島県郡山市立大槻中学校 校長）

▶ ICTを生かした授業実践からの気づき

教材 3年「二通の手紙」

生徒たちには、教材文をロイロノートで配信し、朝の読書時間を活用して事前に読んでもらいました。

授業では、教材の内容を振り返りながら、元さんの印象について意見を共有し合いました。また、動物園での出来事に対して「あなたならどうしたと思いますか？」という問いを通じて、自分ごととして考える場を設けました。

その際、デジタル教材「心の数直線」を使ってロイロノート上に一覧表示されたみんなの「心の数直線」を見ることで多様な意見に触れ、異なる意見の生徒と交流することで、多様な考え方が存在することを実感し、さらなる学びへの意欲を育みました。その後、「元さんの決断についてどう思いますか？」という問いについての自分の考えを4象限の図で表し、ロイロノート上に一覧表示させて、ここでも自分とは異なる意見の生徒と交流した後、話し合い活動をしました。

生徒たちの感想を読むと、生徒たちは多様な意見を単に受け止めるだけでなく、自身の考えと照らし合わせ、再構築したり、新たな視点を取り入れたりすることで、自分の生き方に生かそうとしていました。

校長が道徳科の授業をする意義としては、生徒たちとの新しい接点をつくることで生徒理解を深めることや、担任の先生方への理解も深めることができたのではないかと思います。

総括 渡邉 真魚 先生 （日本大学 教授）

▶ 各発表や授業づくりの質疑応答の後、渡邉先生の総括が行われました。

渡邉先生からは、本セミナーのテーマに関連し、授業者の経験知と教育観を掛け合わせると、道徳科の授業のあり方は多種多様に生じるため、そこに難しさを感じる教師が多い実態について言及がありました。そのため授業者と参観者は学校内での子ども観を共有することが大切であると指摘されました。

また、文部科学省の調査結果から道徳科の授業や評価等の課題と成果、中教審諮問をもとに今後の道徳教育の課題や方向性について解説がありました。

猪岡先生の実践は、「『つなぐ』がキーワードのカリキュラムマネジメント」であると指摘されました。また、ぐみの木とリスが元気な頃の関係性を考えるため、教材にない場面について役割演技を用いて取り上げることで、子どもたちが自分との関わりで考えられるよう工夫されていた点を挙げられました。

山田先生の実践は、「考え、議論する」ために生徒が本時の問いをつくる活動が印象的だったとのこと。特に、中学校3年間の集大成として「感動」から「畏敬の念」へと昇華させた点に、本実践の力強さがあったことや教材をつないでいくことで新たな価値観を形成することに寄与したと解説されました。

積田先生の実践は、生徒が考えを言語化し、可視化されることで、「考え、議論する道徳」へとつながる授業だったと解説されました。これまでも言語化していたが、自分と違う意見の相手と対話する必然性を瞬時に生むことができるのはICT活用ならではと感じたとのこと。

また、生徒らが教材と自分との関わりについて「元さんの決断をどう思いますか？」という発問で、登場人物の決断を4象限で考え、生徒らが互いの考えを交流することで他者とつながり、判断力を育てることができたのではないかと説明されました。

各県の熱心な先生方の道徳授業における考え方や手法に直接触れることができ、授業づくりのヒントを得ることができました。

会場やオンライン上の質問に先生方がそれぞれの視点やお考えから応答してくださる姿は、まさに多面的・多角的に考え、議論する道徳授業のようでした。

児童に寄り添う授業づくりの姿勢がすばらしいです。ねらいどおりいかなくても、児童の考えを生かして授業展開に取り組みたいです。

小・中学校のつながりや役職の異なる立場での実践、さまざまな視点からの話を聞くことができて、とても勉強になりました。

小学校教員として、中学校の実践をお聞きして道徳教育の積み重ねの大切さを実感しました。授業に取り入れたい手法も学ぶことができました。

開催決定！

第5回 日文道徳セミナー in 東北

山海の雄大な自然に囲まれた岩手県盛岡市で開催します！

対面・オンラインのハイブリッド開催

道徳の授業づくりを見直すよい機会です。授業の課題や成果を共有しながら、道徳に関する悩みについて一緒に考えませんか。ぜひ、この機会にご参加ください！

テーマ 考え、議論する道徳の授業展開～道徳科における深い学びとは～（仮）

日時 2026年2月21日（土）時間未定

会場 岩手教育会館カンファレンスルーム200
〒020-0022　岩手県盛岡市大通一丁目1番16号
https://www.i-kaikan.jp/

内容 小学校、中学校の先生方による授業実践の発表、トークセッション等

進行・総括 渡邉 真魚 先生（日本大学教授）

実践発表者 現在、調整中

参加費 500円（税込）

※ 申し込みは、2025年12月15日（月）受付開始の予定です。申し込み等の最新情報は、弊社Webサイト（下の二次元コード）をご覧ください。

※ 内容等は変更になる場合がございます。

セミナーに関するお問い合わせ

日本文教出版株式会社

東京本社

〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
日文道徳セミナーin東北 事務局
nichibun.tohoku@gmail.com　TEL：03-3389-4611

CD33780